

愛知県感染症情報

平成 11 年第 29 週（7 月第 3 週）

（コメント）

先週に引き続き手足口病とヘルパンギーナの報告数が多くなっています。

手足口病の報告数は、定点あたり 5.5 人（611 人/112 定点）でした。
ヘルパンギーナの報告数は、定点あたり 7.4 人（829 人/112 定点）でした。

（先生方からのコメント）

- ・ 3 才男児 腸炎ビブリオ
14 才女性 病原性大腸菌
（岡崎市 医療法人川島小児科水野医院）
- ・ 10 才カンピロバクター
35 才手足口病
6 才無菌性髄膜炎（今シーズンはじめてです）
（幸田町 とみた小児科）
- ・ EHEC（O157）1 才男子にて検出 VT1（-）、VT2（-）一般状態は良好です。
アデノウイルス陽性者。男子 1 才 4 名、4 才、5 才、6 才
女子 10 才 計 8 名
EB ウイルス感染 20 才男子 1 名
（尾西市 城後小児科）
- ・ 手足口病、ヘルパンギーナ、流行続いています。
溶連菌散発。
高熱を伴う患者が相変わらず目立ちます。
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ 2 才男、サルモネラ腸炎（O-9:G:-）
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ 咽頭結膜熱と考えられる症例が平年より多い。
（瀬戸市 スズムラ眼科医院）
- ・ 感染性胃腸炎はサルモネラ。
（刈谷市 まついこどもクリニック）

- ・ 感染性胃腸炎 3 歳および 4 歳男各 1 名 キャンピロバクタ (+)
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ 梅雨明けと共に感染症が減りました。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 突発性発疹と診断した人が多い。
(西尾市 こどもクリニック宮地医院)
- ・ 1 才女 サルモネラ SP9 群は腸炎。
3 才男 キャンピロバクター腸炎
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- ・ 2 才の男児病原大腸菌(O119)検出されました。
(春日町 丹羽医院)
- ・ ピークを過ぎたかと思われる手足口病ですが今週も多い。
(田原町 かわせ小児科)
- ・ 5 才男 病原性大腸菌 O26 ベロ毒素産生。
25 才父、27 才、母子供から手足口病感染。
伝染性膿痂疹増えています。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
- ・ ヘルパンギーナ、手足口病が増加。
(豊橋市 豊橋市民病院)
- ・ 咽頭結膜熱の患者増加傾向あり。
(豊橋市 あずまだこどもクリニック)
- ・ 暑くなるとびひが増えてきました。とびひを知らないお母さんも
増えている様な気がします。
(豊橋市 富田小児科)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症感染者 3 名

豊橋市保健所管内在住の 5 才男児。7/9 発病、7/9 初診、7/19 診定。

菌型は、O26、VT1(+).

津島保健所管内在住の 10 才男児。7/12 発病、7/15 初診、7/17 診定。

菌型は、O157。

春日井保健所管内在住の 2 才男児。7/14 発病、7/17 初診、7/25 診定。

菌型は、O157、VT1(+), VT2(+).

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

急性ウイルス性肝炎患者 1 名。

梅毒患者 1 名。

夏休み。定期検査の子供達や休みを待っていた精密検査希望望の親子で外来が賑わう昨今です。いつも貴重な情報を有り難うございます。7月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：夏カゼ症候群のうちヘルパンギーナも手足口病も増加中の地区と、まだ散発中の地区がありますが、ヘルパンギーナの発熱と口腔内粘膜疹による摂食困難から入院例が目立つ地区もあります。発熱と共に髄膜炎症状を伴う例が発生しているようですが無菌性髄膜炎の多発は報告されていません（名鉄病院宮津先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生）。高温多湿の日が続いているせいか細菌性下痢症の報告が届いています：病原性大腸菌 0-157 で HUS 合併例や非合併例、ベロ毒素陰性の 0-1、018、0-86、サルモネラ菌群などによる下痢にウイルス性の下痢症が混在して発生中です（城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生）。気管支炎やマイコプラズマ感染を含む肺炎、仮性クループが地区により相変わらず散発中です（千種区今枝先生、城北・渡辺先生、第二日赤岩佐先生、三菱・岩間先生、労災・山田先生）。その他、ウイルス性発疹症（千種区今枝先生、労災・山田先生）、川崎病数例（名鉄・宮津先生）、膿痂疹（千種区今枝先生、労災・山田先生）、ブ菌性熱傷様皮膚症候群（三菱・岩間先生）などの報告をいただきました。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは頭痛・嘔気・発熱を主訴として経過は3-4日ほどの感冒様疾患が多発中で、ヘモフィルス菌による扁桃炎（セフェム系抗生剤抵抗性）終息傾向、津島市民病院片桐先生からは水痘、ムンプス、咽頭結膜熱、アデノウイルスらしき浸出性扁桃炎が目立つ、江南市昭和病院丸地先生からは手足口病とヘルパンギーナが目立ちヘルペス口内炎の入院2例、岩倉市永吉先生からはヘルパンギーナ（6歳以下、発熱は2日間）多発中で手足口病の発生始まり、病原性大腸菌 0-6 による入院例あり、常滑市民病院肥田先生からは水痘とヘルパンギーナの小流行あり、市立半田病院中島先生からは突発疹と水痘がチラホラ程度で感染症の大きな流行はないとのお手紙でした。

3. 三河地区：豊田市竹内医院梶田先生からはヘルパンギーナ急増中で手足口病も多い、岡崎市民病院糸洲先生からは手足口病とヘルパンギーナが目立ち原因不明の乳児の無菌性髄膜炎の入院と川崎病の入院例目立つ、安城更生病院小川先生からは手足口病とヘルパンギーナが流行して夏らしい外来になっている、知立市近藤先生からは手足口病とヘルパンギーナが流行中で水痘、溶連菌感染症、ムンプスがパラパラ、病原性大腸菌 011 感染症 1 例あり、刈谷市田和先生からは手足口病多発中でヘルパンギーナと水痘がパラパラあり3-4日の発熱と咳漱の例が多く嘔吐下痢のものもあり、碧南市永井先生からはヘルパンギーナ急増、手足口病と水痘、溶連菌感染症も目立つ、豊橋市からは手足口病、ヘルパンギーナ、嘔吐症などが目立つ（市内宮澤先生、長屋先生）とのお手紙をいただきました。有難うございました。

4. エンテロウイルス、アデノウイルスについて先生方へお願い：夏カゼ症候群の流行期です。現在発生中のヘルパンギーナや手足口病では無菌性髄膜炎などの合併症の多発は認められていませんが先生方の地区の状況をお知らせください。ウイルス検査を含めて先生方と愛知県・名古屋市衛研と緊急対応を考えたいと思っています。（文責 磯村）